

郷土のシンボル(昭和53年7月15日制定)

市の木
かし



ブナ科の常緑高木で、俗に「どんぐり」という実がなり、材は堅く、クワやスキなどの農耕具にも使われました。「かし」は昔から上尾の土壤にしっかり根をおろし防風林や防火林として、人や家を守るうえで、大きな役割を果たしてきました。

市の花
つつじ



愛好家が非常に多く、丸山公園や街路の花壇などに植えられている春の花です。「つつじ」は種類が多く、気候の変化や公害にも比較的強く、だれでも手軽に栽培できます。市の花つつじはさつきやささまざまなつつじの種類を含みます。

市民の木
あおき



ミズキ科の常緑低木、雌雄異株で冬に赤い実がなります。「あおき」は私たちの囲りにはどこでも自生し、庭のかたすみ、軒下など狭い場所や家の北側に植えてもじょうぶで、一年中緑で飾ってくれます。



上尾市歌

制定・上尾市歌等選定委員会

歌 編 作 作
曲 曲 曲 詞
安 三 清 岩
念 浦 水 井
千 洗 保 安 作
重 一 雄 司 太
子 一 雄 郎

一、 仰ぐ秩父嶺雲晴れて
今日も希望の陽がおどる
ここにあふれる躍進の
意気の旗風あざやかに
市民ぞわれらこぞりたつ
おの上尾市行こう栄えを
はてしなく

二、 恵みつきせぬ荒川の
ひらく沃野のしあわせが
ここにかなる生産譜
歌も明るい勤労に
市民ぞわれらげみ合う
おの上尾市うたえ未来ぞ
限りなく

三、 月の世にいまもなお
昔なつかし武蔵野の
ここを要と花はさく
かおる文化に和をそえて
市民ぞわれらもろともに
おの上尾市まれ平和を
ゆるぎなく